

窪小学校 学校だより



大地

令和6年1月号

校長 指崎 邦久

1月1日に起きた「令和6年能登半島地震」に際し、家屋や家財道具が損傷したり、自宅付近の道路状況が変化したりして、生活に大きな影響が出た方もいらっしゃるのではないかと思います。何より、大きな揺れや大津波警報発令によって精神的にダメージを受けられたこととお察しいたしますとともに、心からお見舞い申し上げます。1日も早く、物心両面で日常生活に戻ることを願っております。

学校は、予定より1日遅れて1月10日（水）に学校を再開することができました。ミマモルメメールを通して、子供たちの安否を確認できていたのですが、実際に顔を合わせることができて、安心できました。子供たち全員の心のうちをくみ取ることはできませんでしたが、中には自分でも整理しきれていないショックを受け、平気な顔をしている子供もいるのではないかと心配しています。また、一人一人がその子供だけの大変な思いを隠しもっているのではないかと心配しています。このようなときは、人とのつながりが心を強くしたり、明るくしたりするのではないのでしょうか。大変な気持ちを一人で抱えるのではなく、誰でも大変な思いをもっていることを理解し合って、助け合っていけるようにしたいと考えています。



一人一人が輝けるように

1月10日（水）に、始業式を行いました。2学期末に行う予定だったがんばったことの発表も行いました。長い休みの後だったのですが、立派な態度で発表していました。子供たちの逞しさを感じました。上級生が、下級生が発表しやすいように気を配りながらマイクを差し出す優しい姿も心に残りました。



今回は、6名の学年代表ががんばる姿を發揮しました。これから学校生活において、いろいろな場面でそれぞれの子供がよいところを發揮して輝けるように指導していきたいと思っています。

学校では、子供の心理状態に配慮しながら指導していきますが、お子さんの様子で気になることがありましたら、担任にお知らせください。

心のケアを

(「PLAN INTERNATIONAL『災害時の子どもの心を守る方法』より)

本校の生徒指導主事が、子供たちへの心のケアの参考資料として示したものです。

参考になる場合もあると思い、紹介します。(原文のまま)

1. 子どもたちの声に耳を傾ける

- ・話すよう強要してはならない。
- ・子ども自身が話したいときに、耳を傾け、感情に寄り添うようにする。



2. 落ち着いて話しかける

- ・災害後は集中力や記憶力が低下することも。
- ・一度で伝わらなくても、焦らず、優しく話す。

3. いつもと異なる行動も受け入れる

- ・暴力的になったり、赤ちゃん返りしたりなどの反応は、不安な気持ちの表れかもしれません。また、自分なりに現実を受け止めようとして、いつもと異なる行動をとることもある。否定せずに、子どもの回復力を信じましょう。



4. 子どもに接する大人も心身のケアが必要

- ・教員や保護者など身近な大人の心の安定が、子どもの心の安定につながります。子どもに接する大人を支えることや、自分の休養・ストレス発散も忘れずに。

—生徒指導主事は、最後にこう結びました。—

「大人が慣れない生活でストレスを抱えていることもあると思います。

まずは心の余裕を大切に、子供の心の回復力を信じて焦らず関わっていきましょう」

保護者の皆さんも、子供のためにという思いでストレスを心の中に押さえ込んでいるのではないのでしょうか。何か困ったことがありましたら些細なことでもよいので、学校に相談してください。このようなときこそ、学校とご家庭が力を合わせながら、ともに子供の成長を支えていきませんか。

